



大銀杏

喜多市立慶徳小学校 学校だより
令和元年10月24日(木)第12号
発行責任者 校長 石田 秀喜

【教育目標】心豊かで、主体性のある児童の育成 ～育てよう夢 伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子～

適期・適作 ～ 育つべき時に 育てる ～

人間の体は、ある程度まで育つと成長がとまりますが、
子どものころは、個人差はあるもののめざましい成長を見せます。
ですから、靴や服、帽子などすぐに小さくなってしまいます。
このことは、頭脳についても言えます。



「3歳ごろの子どもは、1日に大人の1年分の知識を吸収する」
と言われますし、頭脳の成長のピークは14～15歳で、20歳を過ぎたところから下り坂だと言われます。それだけに、この成長期真っ只中にある子どもたちに、「良書に親しむ」「運動で体を鍛える」、人との「かかわり体験」をたくさん積むなどしながら、頭脳と心にたっぷり栄養をつけてあげたいと考えています。各学年・学級では、そのような学習活動を日々展開しているところです。

作物は蒔くべき時期に蒔いて、育つべき時期に育ち、収穫すべき時期に収穫となります。これを、「適期・適作」というそうですが、教育(=社会教育×家庭教育×学校教育)も、子どもの伸びる力を、伸びる時期に、精一杯伸ばしてあげることだと思っています。

「今日になり、菊作ろうと思いきり」という川柳があります。
よその家の菊がきれいに咲いているのを見て、急いで菊を作ろうと思っても無理だという内容でしょうか。

「親子で読書」してみても・・・



秋だけが読書の季節ではありませんが、夜の時間が長くなってきたこの時期、本に親しむ時間をできる限りつくってあげたいものです。

1学期末の学校評価アンケートの「読書」の項目で、C・D評価が、児童7%に対し、保護者の方は70%と大きなずれがありました。これは、学校では読書している一方で、家では読書をしている姿があまり見られないということなのかもしれません。せめて1週間に1回、時間を決め、テレビやスマホを「スクリーンオフ」して、親子で読書をしたり、お子さんが読んでいる本の内容や感想を聞いたりしてみたいかがでしょうか。読み聞かせなども大いに結構です。

読書を通して、心と頭に栄養を。

多読児童

4月から9月の学年別多読児童

1年	梅宮奏音	山内陽人
2年	佐藤絢音	大竹遥佳
3年	後藤芽依	内島紗綾
4年	小島依路 佐藤愛莉	武藤成美
5年	大関智華	佐藤 錬
6年	武藤凧琉	高橋琉生

交通事故、誘拐にご用心!

日が短くなってきています。明るいうちの早めの帰宅を心がけ、交通事故や誘拐事件に巻き込まれないように注意しましょう。

福島県教育委員会メールマガジン「うつくしま教育通信 Vol 185」の
学校自慢コーナーに本校の取組が掲載されました。(裏面をご覧ください。)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70012a/s-aizul.html>